

# 井戸平左衛門公の頌徳碑を訪ねて④ 県立大学生が頌徳碑の3D記録を検討

大田町 石賀了

山口県を除く中国4県に広がる第19代大森代官、井戸平左衛門公の頌徳碑調査が終わり、助成をいただいた石見銀山協働会議や関係機関への冊子の提供が無事に終わって、期限内に完成したことに胸をなでおろした。報告用とは別に、4月中には販売用の冊子「第19代石見銀山領代官井戸平左衛門正明公/いも代官頌徳碑533基全覧」を

300部発行し、1部3千円で販売を始めたところ、6月末現在で残部が僅少になるほど売れている。A4判全298ページの高レイアウトの重量本で単価が高いため、赤字にならざるを得ない状況だが、この結果に功績を評価する皆さんが多くいらっしゃることに「さすがは井戸さん」と喜んでいる。

ある日、石碑調査を通じて知り合った方の紹介で電話があった。浜田市にある県立大学の地域政策学部の3年生という学生さんで、「井戸公碑を3Dで記録したい」と言う。最初は3Dの意味が分からなかったが、大田まで来ていただいて説明を聞いてやっと内容が分かり、すばらしい取り組みだと感心した。

3D化というのは、スマートフォンで石碑の前後左右から何枚も写真を撮り、それをアプリケーションで取り込んで処理すると、立体的な写真が合成されるというもの。実際に目の前で試しに撮影してもらおうと、撮影も簡単、処理も素早く、あつという間に立体像がスマホの中に出現した。拡大表示することも簡単なので石碑の文字も正確に読める。撮影条件が良ければ小さな文字で彫られた長文の碑文も解読できるかもしれないと感じた。3Dプリンターで出力すれば簡単に立体像を作れることもできるという。すでに、世界のさまざまな遺跡で現状記録に活用されているといい、利点として、電子データとして半永久的に現状の保存が可能なことや、破損したときの修復の資料として活用できると、現地に行けない人にも立体像を見てもらえる、などがあるという。

そうした研究に県立大学生、しかも島根県出身ではないので井戸さんのことを最近まで知らなかった学生さんが取り組もうとしてくれていることがとてもうれしく、協力を快諾した。「全覧」をどこかで見たことがきっかけだったようで、大きなポイントが石碑の場所の緯度経度が詳しく載っていたこと。だれでも石碑にたどり着けることが大きな魅力だったようだ。後は、だれが石碑の場所まで行って写真を撮るかという問題だが、これを「住民参加型の頌徳碑3Dモデル作り」として取り組もうとしており、今後条件を整えて、参加してもらえる住民を募集していくと言う。とはいえ、全533基を卒業までに調査するのは無理だと思われるので、1市町村(浜田市なら173基)、あるいは町単位(浜田市金城町なら35基)で取り組むことを勧めておいた。

## 創作神楽「井戸公」が完成 大屋神楽社中が初披露



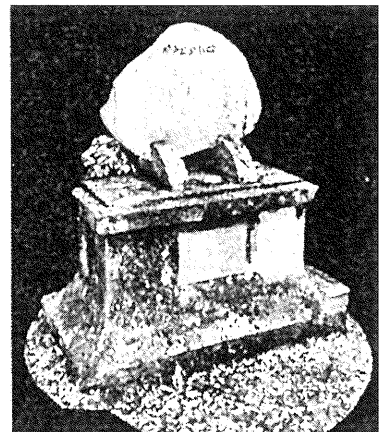
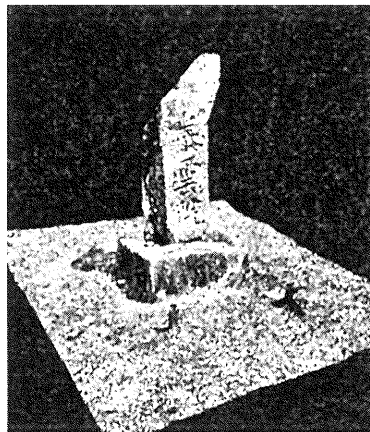
△薩摩から持ち帰ったサツマイモを領民に配る場面

大屋神楽社中が2年間かけて創作した神楽「井戸公」が完成し5月27、28日の2日間、大森町のいも代官ミュージアム前庭で初披露され、会場から大きな拍手が送られた。今後市内外で上演するという。

大屋神楽社中が2年間かけて創作した神楽「井戸公」が完成し5月27、28日の2日間、大森町のいも代官ミュージアム前庭で初披露され、会場から大きな拍手が送られた。今後市内外で上演するという。

大屋神楽社中が2年間かけて創作した神楽「井戸公」が完成し5月27、28日の2日間、大森町のいも代官ミュージアム前庭で初披露され、会場から大きな拍手が送られた。今後市内外で上演するという。

大屋神楽社中が2年間かけて創作した神楽「井戸公」が完成し5月27、28日の2日間、大森町のいも代官ミュージアム前庭で初披露され、会場から大きな拍手が送られた。今後市内外で上演するという。



△3Dプリントの試作立体像。浜田市(左)と井戸神社の井戸公碑

大屋神楽社中が2年間かけて創作した神楽「井戸公」が完成し5月27、28日の2日間、大森町のいも代官ミュージアム前庭で初披露され、会場から大きな拍手が送られた。今後市内外で上演するという。

# 井戸平左衛門公の頌徳碑を訪ねて ④2

## 「平均的な」井戸公碑はどんな姿？

大田町 石賀 了

山口県以外の中国地方4県に建てられている、第19代大森代官、井戸平左衛門公の頌徳碑調査をまとめた「全覧」(いも代官頌徳碑533基全覧)を300部限定で4月に発行した。1部3千円と高価になったが、多くの皆様のご協力で、「残部僅少」まで買っていた。また「残部僅少」まで買っていた。

碑銘は「泰雲院系」が多数

石碑正面の碑銘は、姓名の井戸正明の一部を彫った「井戸系」、戒名の泰雲院義岳良忠居士の一部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵

部を彫った「泰雲院系」、「嘉恵



▷平均値に近い浜田市足王神社横の「泰雲院殿」碑

大田市では47対42と井戸系がやや多い(ただ、過半数はない)。これは大田市だけの特徴で、江津市では35対49、浜

石の姿では、墓石のように石を四角に加工した「墓石型」と自然石をそのまま使う「自然石型」に分けられ、ほかに少ないが「祠型」もある。ここでも地域的な特徴があり、大田市と江津市は52対48と同じ比率で墓石型が多く半数以上を占めているが、浜田市は6対94、松江市は11対89と圧倒的に自然石が多い。全

体でも同じ傾向で、29対71と自然石が圧倒的に多い。4市以外の市町村では、墓石型が多いのは川本町68、西ノ島町67、境港市57、尾道市100%(1基のみ)である。建立年代は明治が優勢

益田市木部町の28基だが、これは隣の碑と親子碑。単独で見ると、最小は浜田市久代町荒相の508基で、全体の平均値は台石込みで177基である。以上の分析をもとに「平均的な」井戸公碑の姿を推察すると、碑銘は「泰雲院系」、型は「自然石型」、明治時代に建てられた177基の碑、ということになる。ほぼこの姿に近いのは浜田市相生町足王神社横の「泰雲院殿」(明治12年建立の自然石で総高さ176基)などである。長い間私がぼんやりと想像していた「井戸系」で「墓石型」というのは平均的な井戸公碑の姿ではなかった。



最大の碑(左)と最小の碑(右)の大きさ比較

# 井戸平左衛門公の頌徳碑を訪ねて④

## 現地調査こぼれ話 益田市編 「上」

大田町 石 賀 了

令和4年度までに井戸公の頌徳碑のすべて、533基の現地調査を終え、それをまとめた冊子「全覧」を発行でき、大事業を成し遂げた達成感に浸っている。

現地調査をした中で、特徴的な碑や苦労した話など、断片的にこの項で紹介してきたが、改めて、市町村ごとに、まだ紹介していないユニークな碑などを紹介していこうと思う。今回は益田市編の第1回目として、2つの碑を紹介する。

### 津和野より益田が西？

益田市のうち最も西側に位置する、JR戸田小浜駅のすぐ西の明圓寺の境内にある「井戸正明殿碑」(台石3段/総高さ255<sup>cm</sup>以下「明圓寺の碑」)を調査した後、近くの小野公民館に寄って、地域の皆さんが調査さ



△全533基中、最も西側にある益田市小浜町明圓寺の「井戸正明殿碑」

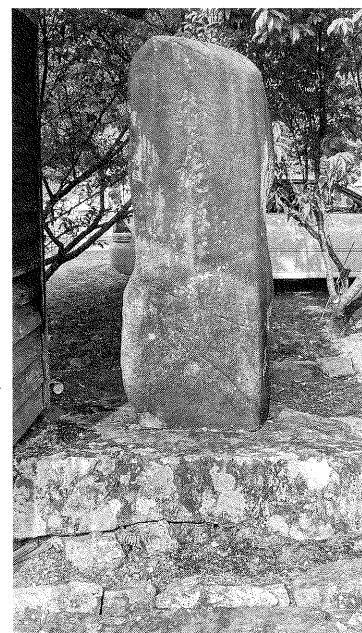
れた資料を見せていただいた。それによると、この碑は「現在分

かつている井戸公碑の中で最も西に位置する」と書いてある。この日の私たちの調査は、明圓寺の後、津和野町にある碑を調べに行くことにしていたのだが、津和野は益田市の西にあると思っ

方「西」という表現に違和感を覚えながら、津和野の碑の調査に向かった。

津和野の碑は日原の丸立寺の境内にある「泰雲院殿義岳良忠大居士」という碑で、大きな亀の形をした台石の上に自然石が乗った、かなり珍しいものだ。

津和野町にはこの1基しかなく、調査を終えてもなお、津和野の方が西に位置するのではないかと、この思いにとらわれたが、記録した経度の数字を見比べると、本当に明圓寺の碑の方が西ということが分かった。津和野の碑の東経は131度50分強、明圓寺の碑は東経131度44分弱。小数点にすると約0.1度明圓寺の方が西になる。この付近の緯度(北緯34.5度前後)だと、経度が1度違うと約90<sup>m</sup>の距離があるので、0.1度離れているということは明圓寺の碑が約9<sup>m</sup>西に位置していることになる。ちよつと驚いて、自宅に帰って地図を広げて両市町の位置を



△叩くと「カーン」と乾いた金属音がする益田市美都町大智寺の「泰雲院殿」碑

改めて確認すると、なるほど、私は津和野町は益田市の西にあると思っ込んでいたが、そうではなくて、ほぼ南側に位置している。しかも、明圓寺は益田の中でも国道191号で持石海岸を西に走り、あと約5<sup>m</sup>で山口県という場所であり、津和野町の碑は町の中でも東寄りの日原にあるという位置関係。しかも、今のところ山口県に碑は見つかっていないので、益田市の明圓寺の碑が最西端に位置することを納得した。

### 叩くと金属音がする碑

今回紹介するもう1基は、益田市美都町丸茂下の大智寺にある「泰雲院殿」碑(台石2段/総高さ204<sup>cm</sup>)で、叩くと金属のような音がする、珍しいものだ。大智寺は匹見町に向かう、こち

らも国道191号沿いであつて、碑も山門を入るとすぐの場所にあるのでわかりやすい。石は茶色っぽい自然石で、少し艶のある目の細かい硬そうな石。苔などもきれいな状態で立っている。調査に行ったときにちょうど「住職が境内におられたので、お話を聞きながら調査している」と、「この石は叩くと金属のような音がします」と言われる。「石が金属音？」と不思議に思いつながら叩いてみると、中が空洞のような「カーン」という乾いた金属音が響いた。

叩いたら変わった音がする石碑があるとは考えてみたこともなかったため、ほかの碑もほとんど叩いてはいないが、金属音がする大智寺の石碑は、珍しい石碑の一つではある。